

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																				
麻生外語観光&製菓専門学校		平成3年1月8日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-14-17 (電話) 03-6734-2939																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																				
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-38 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																			
商業実務	商業実務専門課程	国際貿易科				平成22年文部科学大臣 告示第31号																				
学科の目的		貿易業界で必要とされる専門知識、専門資格、技能を備え、実社会に通用する人材の育成を目標とする。																								
認定年月日		平成27年2月17日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1810時間		1880時間	210時間	104時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																
60人		19人		0人		1人		19人		20人																
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テスト等の総合評価																				
長期休み	■夏季:8月8日～9月11日 ■冬季:12月24日～1月10日 ■春季:3月14日～4月3日				卒業・進級 条件	ア. 指定科目全ての修得 イ. 各学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイドンスの実施。学科責任者との面談、三者面談の実施。				課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																				
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 貿易、物流業界など ■就職指導内容 希望する業界(企業)と個々の適正を見定め、指導、助言を与える。 ■卒業生数 6 人 ■就職希望者数 6 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通関士試験 (財務省国家資格)</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>貿易実務検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>IATAディプロマ 基礎コース</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	通関士試験 (財務省国家資格)	③	6人	1人	貿易実務検定	③	6人	1人	IATAディプロマ 基礎コース	③	6人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
通関士試験 (財務省国家資格)	③	6人	1人																							
貿易実務検定	③	6人	1人																							
IATAディプロマ 基礎コース	③	6人	6人																							
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 5.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者18名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者18名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 ガイドンス時の聞き取りと、学科に関する情報伝達の徹底																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災して進学が困難になった者を対象に、入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科の ホームページ URL	該当なし																									

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携により実践的かつ専門的な職業教育を実施することで人材養成課程の質の保証・向上を基本方針とする。授業科目開設においては、卒業生に対する「お客様アンケート」結果と教育課程編成委員との意見交換により、企業視点を軸としてグローバル社会において必要とされる知識・技能の修得を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専攻分野における市場動向や地域産業振興の方向性等に関する意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。尚、委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

この際の委員会審議の内容をカリキュラム会議で報告し授業科目の改善や新規開設、授業内容や方法の改善に反映させる。これにより専攻分野で必要とされる知識・技能の修得を可能とする質の高い教育の提供を目指す。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
増田 義孝	航空貨物研修センター 代表	H29/4/1～H30/3/31	①
小林 俊裕	日本通運株式会社 福岡支店九州グローバルロジスティクス企画 次長	H29/4/1～H30/3/31	③
三笥 秀一郎	麻生外語観光&製菓専門学校 副主任	H29/4/1～H30/3/31	
秋本 佐代子	麻生外語観光&製菓専門学校 国際貿易科 専任教員	H29/4/1～H30/3/31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年 6月23日 16:50～17:10

第2回 平成28年10月20日 16:10～16:50

平成29年度

第1回 平成29年 6月21日 16:50～17:10

第2回 平成29年10月18日 16:10～16:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

通関士や貿易実務の試験対策学習だけでなく、幅広い視野で貿易の流れや世界の経済の流れに関したタイムリーな情報をキャッチする機会を設けることも必要との御意見をいただいた。企業連携授業でもその内容を取り入れていただいているが、新たに輸出港・輸入港それぞれの現場の見学と、輸出港・港湾施設でのインターンシップのご提案をいただいた。現場を体験することにより、机上では学べない貿易・物流の今の現状を理解することのできる機会を設ける予定である。また通関士試験対策として、法改正によって実務面での変更点などを企業の方から学ぶ機会を得た。授業の中でそれを学生に伝えていき、新しい法令での試験にも対応できるよう指導している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。その内容については、将来、貿易・物流業界において即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業と学校による教育受委託契約書等により、教育カリキュラムの設定、変更にあたっては事前に協議を行い、企業が選任した講師による実習・演習を実施し、評価としては期末試験課題提出状況などを踏まえた総合評価を事前確認している。

【授業科目】 貿易概論

【開設の目的】

通関士試験対策のみにカリキュラムを特化するのではなく、貿易・物流業界に就業する上で必須となる物の流れを理解させる機会を入学直後に取り入れた。また知識習得度と学習成果を認識させ、継続的な学習につなげ、将来的に即戦力となり得る実践的なスキルを修得する。

【連携内容】

1. 連携企業の教授により貿易業界の概要(輸出入取引、輸出入取引業務など)を学ぶ。
2. 知識の習熟度を測るため、検定を取得し実践の場で有効に活用できる手段とする。
3. 学習成果の評価は、現場のニーズを踏まえた指標を連携企業との協力の下に設定し、そのため年初に評価項目をあらかじめ設定し、評価方法を明示する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
貿易概論	海運を中心に貿易の流れを理解する。輸出入取引の実務ならびに、関連する条約や法律の基礎知識を理解習得する。実務の業務を想定したケーススタディや、課題研究を取り入れた授業を通して、実践力を育成する。	極東海運株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

業界就職に求められる人材像を分析し、カリキュラムやシラバスに反映させ、さらに即戦力となる人材の育成を図るため、「教職員研修規定」に則り、教職員の能力及び資質等の向上を目的とした研修を継続的に実施することを基本方針とする。

定期的な企業からのヒアリングや貿易・物流業界の企業説明会に参加し情報収集することにより、同業界の現状を常に把握し企業視点を軸とした教育サービスの提供を目指す。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・近年の貿易業界の現状についてカメラライン株式会社と情報交換
- ・門司税関博多支署での輸入体験
- ・門司税関・検査場
税関現場における日本を取り巻く輸出入の現状や、水際の取り締まりについての話しを伺い、貿易の現状を学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

無し

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・近年の貿易業界の現状についてカメラライン株式会社と情報交換
- ・門司税関・検査場
税関現場における日本を取り巻く輸出入の現状や、水際の取り締まりについての話しを伺い、貿易の現状を学ぶ
- ・日本通運株式会社
博多港内施設
博多港の現状を学ぶと共に、貨物到着後の作業を見学
- 釜山新港内施設
韓国から日本へ輸出の現状を学ぶと共に、実際の輸出作業を見学

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・アクティブラーニング研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5) 学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11) 国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

カリキュラム策定においては、企業等の外部関係者との連携を更に充実させるため、連携企業の選定も含め体制強化を今後も引き続き実施していくこととした。また、他の高等教育機関との連携を推進する等の改善を行っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
村山 聖子	平成28年度 入学生 保護者	H28/4/1～H30/3/31	保護者
堀部 豊和	平成23年度 卒業生	H29/4/1～H31/3/31	卒業生
高島 妙美	平成21年度 卒業生	H29/4/1～H31/3/31	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	H29/4/1～H31/3/31	自治会長
甲斐 直樹	福岡県立直方高等学校	H29/4/1～H31/3/31	校長
増田 義孝	航空貨物研修センター 代表	H29/4/1～H31/3/31	団体
山方 浩	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー 事務局長	H28/4/1～H30/3/31	団体
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	H29/4/1～H31/3/31	団体
加藤 博志	九州B.M.C.会長	H29/4/1～H31/3/31	団体
鶴田 武彦	福岡県洋菓子協会 専務理事・事務局長	H29/4/1～H31/3/31	団体
長 加奈子	福岡大学 准教授	H28/4/1～H30/3/31	教育機関
松永 陽子	ANA福岡空港株式会社旅客サービス部 旅客サービス課 マネージャー	H29/4/1～H31/3/31	企業
荻原 将章	ANA福岡空港株式会社グランドサービス部 ラインハンドリング課3課 マネージャー	H29/4/1～H31/3/31	企業
小林 俊裕	日本通運株式会社福岡支店九州グローバルロジスティクス企画 次長	H29/4/1～H31/3/31	企業
木村 弘	トップスタッフ株式会社 九州支店 主任	H29/4/1～H31/3/31	企業
金 大義	株式会社韓進インターナショナルジャパン福岡空港事業部 事業部長	H29/4/1～H31/3/31	企業
森山 光	株式会社アルク教育社 福岡支店 支店長	H29/4/1～H31/3/31	企業
能城 めぐみ	ヒルトン福岡シーホーク 人事部 次長一人材開発担当	H28/4/1～H30/3/31	企業
大屋 寿	株式会社ニューオータニ九州 執行役員人事総務部長	H29/4/1～H31/3/31	企業
古賀 三和子	株式会社アルカディア 人事課長	H28/4/1～H30/3/31	企業
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	H28/4/1～H30/3/31	企業
藤田 敦子	ロイヤルホールディング株式会社 人事課長	H29/4/1～H31/3/31	企業
安藤 大介	高見株式会社 九州営業部 部長	H29/4/1～H31/3/31	企業
樋口 耕平	株式会社JTB九州 企画総務部	H28/4/1～H30/3/31	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

<http://www.asoju.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生専用学生寮
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

<http://www.asojuku.ac.jp/aftc/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 国際貿易科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			貿易概論	海運を中心に貿易の流れを理解する。	1前	15	1	△	○		○			○	○
○			通関業法Ⅰ	通関業者について定めた法律を学ぶ	1前	15	1	○			○			○	
○			関税法ⅠA	輸出や輸入の定義をはじめ、関税全般について学ぶ	1前	60	4	○			○				○
○			関税定率法ⅠA	税率の考え方や減免税制度などについて学ぶ	1前	60	4	○			○				○
○			通関実務ⅠA	輸出入申告書の作成、課税価格の計算方式について学ぶ	1前	30	2	○			○				○
○			通関士試験対策ⅠA	通関士試験の対策を通して、通関士に対する理解を深め、通関士試験合格を目指す	1前	30	2	○			○				○
○			航空概論	航空業界の基礎を学び、航空貨物の流れを理解する	1前	30	2	○			○				○
○			実用英語Ⅰ	実用英語技能検定試験対策授業。貿易業界で必要な語学力を伸ばす	1前	60	4	○			○				○ △
○			英会話ⅠA	業界で必要な英語運用能力の基礎を学ぶ	1前	30	2	○			○				○
○			通関士試験対策ⅠB	試験対策を通して、通関士に対する理解を深め、通関士試験合格を目指す	1後	40	2	○			○				○
○			関税法ⅠB・ 関税定率法ⅠB	関税法・関税定率法に関して学ぶ	1後	30	2	○			○				○
○			通関実務ⅠB	輸出入申告書の作成、課税価格の計算方式について学ぶ	1後	30	2	○			○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 国際貿易科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			貿易実務Ⅰ	貿易実務検定C級合格に必要な知識を学ぶ	1後	45	3	○			○		○		
○			貿易英語Ⅰ	貿易実務検定C級合格に必要な専門用語を学び、読解力を伸ばす	1後	15	1	○			○		○		
○			国際経済	経済を広い範囲で捉えることにより、世界全体の貿易の流れを知る	1後	15	1	△	○		○			○	○
○			IATAディプロマ基礎	国際航空貨物取扱士(ディプロマ)の基礎を学ぶ	1後	45	3	○			○			○	
○			TOEIC対策	TOEIC 対策をしながら、貿易業界に必要な語学力を伸ばす	1後	30	2	○			○		○	△	
○			英会話ⅠB	業界に必要な英語運用能力の基礎を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
○			IATAディプロマ応用	国際航空貨物取扱士(ディプロマ)の取得を目指す	2前	45	3	○			○			○	
○			世界文化地理	海外とのやりとりを視野に入れ、世界の文化、商習慣などの違いを学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
○			実用英語ⅡA	英語の検定の学習を通して、語学力を身に付ける	2前	60	4	○			○		○	△	
○			英会話ⅡA	業界に必要な英語運用能力を養う	2前	30	2	○			○			○	
○			中国語A	第2外国語として中国語の基礎を習得する	2前	30	2	○			○			○	
○			通関実務演習	通関士対策試験で学んだ内容を実践力につなげる	2後	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 国際貿易科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			実用英語ⅡB	英語の検定の学習を通して、語学力を身に付ける	2後	60	4	○			○		○	△	
○			英会話ⅡB	業界で必要な英語運用能力を養う	2後	30	2	○			○			○	
○			中国語B	第2外国語として中国語の習得を目指す	2後	30	2	○			○			○	
○			卒業研究	各自でテーマを設定し、これまで学んだ内容をまとめ、発表できるようにする	2後	90	6	○	△		○		○		
	○	A	物流概論	陸・空・海すべての物流に関して学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
	○	B	通関総合演習	通関士対策の総まとめとして問題演習で力をつける	2前	15	1	○			○		○		
	○	B	通関業法Ⅱ	通関業者について定めた法律についてさらに深く学ぶ	2前	15	1	○			○		○		
	○	A	貿易実務ⅡA	貿易実務検定B級合格に必要な知識を学ぶ	2前	60	4	○			○		○		
	○	B	関税法ⅡA	関税法全般についてさらに深く学ぶ	2前	60	4	○			○			○	
	○	A	貿易英語ⅡA	貿易実務検定B級合格に必要な専門用語を学び、読解力を伸ばす	2前	60	4	○			○		○		
	○	B	関税定率法ⅡA	税率の考え方や減免税制度などについてさらに深く学ぶ	2前	60	4	○			○		○		
	○	A	総合演習	総合的な知識を身につけ、幅広い業界で活躍できるような素地を備えることを目的とする	2前	60	4	○	△		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 国際貿易科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○	B	通関実務Ⅱ	輸出入申告書の作成、課税価格の計算方式について深く学ぶ	2前	30	2	○			○		○		
	○	B	通関士試験対策ⅡA	通関士試験の対策を通して、通関士に対する理解をさらに深め、通関士合格を目指す	2前	30	2	○			○		○		
	○	A	貿易実務ⅡB	貿易実務検定B級合格の取得を目指す	2後	30	2	○			○		○		
	○	B	関税法ⅡB・関税定率法ⅡB	関税法・関税定率法に関して深く学ぶ	2後	30	2	○			○		○		
		○	通関士試験対策ⅡB	通関士試験の問題練習を通し、通関士試験合格を目指す	2後	40	2	○			○		○		
○			GCBⅠ	様々な事例について話し合うことにより、「感謝と思いやり」を学ぶ	1前	15	1	○			○		○		
○			コミュニケーション技法A	人前で話す・聞く・会話することを通して、自己表現力をつける	1前	15	1	△	○		○			○	
○			Word	ビジネス文書作成方法を学び、Word検定3級の取得を目指す	1前	60	4	△	○		○			○	
○			一般教養ⅠA	就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
○			社会教養ⅠA	就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1前	30	2	○			○		○		
○			Excel	グラフ・表作成方法を学び、Excel検定3級取得を目指す	1後	45	3	△	○		○			○	
○			一般教養ⅠB	一般教養ⅠAに続き、就職対策として一般教養の基礎知識を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

（商業実務専門課程 国際貿易科）平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会教養ⅠB	社会教養ⅠAに続き、就職に対する基礎知識、履歴書作成、面接練習など、就職内定へ向けての実践授業	1後	30	2	○			○		○		
○			ビジネス実務Ⅰ	社会人として必要なビジネス上のマナーの基礎を学ぶ	1後	30	2	○	△		○			○	
○			コミュニケーション技法B	人前で話す。聞く・会話することを通して、就職面接対策とする	1後	15	1	△	○		○				○
○			ペン字	履歴書作成のために美しい字が書ける技術を身につける	1後	15	1	△	○		○				○
○			GCBⅡ	著名人や偉人の人生や教訓を通して、「志」を学ぶ	2後	15	1	○	△		○			○	
○			一般教養ⅡA	就職試験対策の一環として、筆記試験の力を身につける	2前	30	2	○			○				○
○			社会教養ⅡA	就職活動の準備から社会人としての基礎知識習得を目指す	2前	30	2	○			○			○	
○			ビジネス実務ⅡA	ビジネス能力検定(B検)3級の合格に必要なビジネスマナーの知識を学ぶ	2前	30	2	○			○				○
○			一般教養ⅡB	就職試験対策の一環として、筆記試験の力をさらに身につける	2後	15	1	○			○				○
○			社会教養ⅡB	社会人として必要な基礎知識や考え方などを学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
○			ビジネス実務ⅡB	ビジネス能力検定(B検)3級の取得を目指す	2後	30	2	○	△		○				○
○			貿易事務演習	一般事務や貿易事務で取り扱う書類について、実践を通して学ぶ	2後	15	1	△	○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 国際貿易科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			文化教養スポーツ演習	社会人として必要な教養を、体験を通して学び、また基礎体力をつけることを目的とする	2 後	15	1	△	○		△	○	○		
		○	海外研修旅行Ⅰ	机上で学んだ知識を体験を通して身につける	1 後	32	0			○		○			
		○	海外研修旅行Ⅱ	机上で学んだ知識を体験を通して身につける	2 後	32	0			○		○			
		○	企業インターンシップ	実際に企業を訪問し、経験を通して業界への理解を深める	1 後	40	1			○		○			
合計			55科目				1810単位時間 (121 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。